

郷土の 偉人

黒江太郎は明治 43 年に宮内に生まれました。大正 6 年、宮内小学校に入学、同級生には、後に小説家になった小田仁二郎がいました。4 年生の時の担任、田島賢亮の影響で太郎少年の文学への想いが芽生えたようです

大正 12 年、米沢中学校に進学後、昭和 3 年日本歯科医学専門学校に入学。すぐに校内の富士短歌会に入会し、太田水穂に師事しました。やがてアララギの歌人斎藤茂吉に傾倒し、茂吉の第一歌集「赤光」を借りて全 832 首を暗記したそうです。

昭和 7 年に日本歯科医専卒業、同 10 年、宮内の自宅で歯科医院を開業しましたが、その間にも歌道に精進し、同 13 年歌集「山径集」、16 年「すがな」を出版、19 年には「アララギ」に入会しました。そして同 20 年 10 月には上山市金瓶に疎開中の斎藤茂吉を訪問し、以来 2 年にわたり直接歌作の指導を受けました。

昭和 21 年 9 月には原知一と共に「宮内アララギ短歌会」を興し、歯科医業のかたわら歌道に精進しました。その後、同 31 年には歌集「湖盆」を出版、また後進の指導にもあたりました。

一方、斎藤茂吉の師である佐原隆^{りゅうおう}心や小滝出身の漢学者漆山又四郎の研究も進め、昭和 33 年「隆心和尚」、41 年「隆心和尚と茂吉」を、36 年「評伝漆山又四郎」を出版しています。

他方、郷土史研究も進め、昭和 37 年には「宮内文化史研究会」を結成。同志と共に「宮内文化史資料」を 30 集まで出しつづけ、その間に 40 年「宮内町の文化財」を、51 年「宮内熊野大社史」なども出版しました。



●「宮内町の文化財」執筆中

黒江 太郎



このような業績が認められ、昭和 43 年山形県教育功労者表彰、44 年第 15 回斎藤茂吉文化賞を受賞。昭和 54 年 7 月に 68 歳で亡くなりました。

宮内熊野大社境内には

しづかなる日のさす苔にうづまりて 平たき石は朝より乾く

の歌碑があり、黒江太郎の業績を讃えています。

文・須崎寛二

平成 24 年 7 月 1 日号 市報なんよう掲載